

**スポーツ施設を利用しない理由に関する基礎的情報の整理
－アンケート調査の自由記述からの検討－**

阿部 征大・清宮 孝文

**A study on analysis of text data in survey answers
for not using sports facilities**

Yukihiro Abe, Takafumi Kiyomiya

神戸医療未来大学紀要 第24巻 第1号

(令和5年12月)

<研究ノート>

スポーツ施設を利用しない理由に関する基礎的情報の整理 —アンケート調査の自由記述からの検討—

阿部 征大¹⁾・清宮 孝文²⁾

A study on analysis of text data in survey answers for not using sports facilities

Yukihiro Abe¹⁾, Takafumi Kiyomiya²⁾

This study surveyed individuals who do not use sports facilities to understand the factors that impede their utilization of such facilities and to provide basic data for informing future research.

A questionnaire was administered to 600 people who had not used a sports facility in the past three years. In the survey, respondents described their personal attributes and, using a free-form format, explained their reasons for not using sports facilities. The responses were processed through simple tabulation and subjected to text mining analysis.

During the text mining analysis, collocation networks were created, leading to the identification of eight categories. Among men, a lack of time and cost influenced their decision despite their interest in physical exercise. In contrast, women were influenced by negative perceptions of sport, including the perception that it is challenging or exhausting. When considering age groups, respondents in their 20s mentioned the perception of sports being tiring; those in their 30s and 40s expressed a dislike for sport or found it bothersome; those in their 50s cited lack of time, and those in their 60s mentioned financial and COVID-related concerns.

Key words : Reason for not using, sports facilities, Basic information
利用しない理由、スポーツ施設、基本的情報

1. 緒言

スポーツ庁が定めた第3期スポーツ基本計画では、「新型コロナウイルスの影響の下、スポーツが、いわば『不要不急』のものであるかのごとく扱われ、日々の生活から失われたり、制限されたりすることで、個人にとって見た場合、体力の低下やストレスの増加と

いった心身の健康保持への悪影響、閉塞感のまん延、日頃の成果発表の機会の喪失等の悪影響が生じた」¹⁾ ことによって、国民生活や社会活動に様々な悪影響を及ぼしたと詳説し、「スポーツが、我々の生活や社会に活力を与えるなど優れた効果を及ぼす重要な価値をもっていることを改めて示すこととなった」¹⁾ とし、国民にスポーツの価値を享受で

1) 神戸医療未来大学 (Kobe University of Future Health Sciences) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5
2) 静岡産業大学 (Shizuoka Sangyo University)

きるよう、より一層、スポーツ実施の推進を図ることが示された¹⁾。

スポーツ庁が実施した「スポーツの実施状況等に関する世論調査」²⁾では、20歳以上で週1日以上スポーツ実施率は59.9%（令和2年）、56.4%（令和3年）、52.3%（令和4年）と減少傾向にある。また、「仕事が忙しいから」41.0%、「面倒くさいから」29.4%、「年をとったから」21.5%、「お金の余裕がないから」11.6%、「運動・スポーツが嫌いだから」10.6%、「コロナウイルス感染症対策によるスポーツの必要性に対する意識の変化」4.7%といった項目が運動頻度に満足していない人の運動・スポーツの阻害要因として挙げられている。スポーツ実施率の減少や運動・スポーツの阻害要因は、少なからずコロナウイルスが影響し、生活に変化が生じたからである。さらに、社会の変化に伴い、国民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを実現できる社会を目指すために、「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともにつながる」「誰もがアクセスできる」という3つの新たな視点が必要とされている¹⁾。この3つの視点の重点施策として、性別・年齢・障害の有無に関係なく、それぞれがスポーツに参画できる環境の構築や施設の整備やプログラムの提供、啓発活動を通じてスポーツを楽しめる環境を構築、オープンスペース等のスポーツができる場の創出、スポーツ施設のユニバーサルデザイン化の推進が挙げられ¹⁾、社会や生活の変化に伴った運動・スポーツ環境の変化に対して政策が掲げられている。このように、社会や生活の変化に適応した誰もがスポーツを楽しめる環境を構築するために、施設というスポーツができる場は重要である。

近年のスポーツ施設の研究は、施設利用の満足度を調査している研究^{3)~6)}やスポーツ教室参加者を対象としたトレーニング室の新

規利用者獲得の市場開拓に着目した研究⁷⁾、スポーツ施設の利用目的を明らかにしている研究^{8) 9)}が実施されている。これらのスポーツ施設の研究は、利用者に着目しており、実際に施設を利用する運動・スポーツ実施者で、利用していない者に対しての蓄積は少ない。

よって、社会や生活の変化に伴った運動・スポーツ環境が求められる中、人とスポーツを繋ぐことができるよう、運動・スポーツをする場であるスポーツ施設に着目し、今後の研究に役立てるため、スポーツ施設を利用しない理由の基本的情報から整理していくことで、段階的に研究を行う一情報を得ることは必要である。

そこで本研究は、スポーツ施設を利用していない者を対象とし、スポーツ施設利用の阻害要因を明らかにすることを目的とした。具体的には、過去3年以内でスポーツ施設を利用していない者を対象にアンケート調査を用いて、スポーツ施設を利用しない理由を自由記述方式で回答を求めた。

2. 研究方法

2.1 調査対象者

本調査はインターネット調査会社（ネオマーケティング）を通し、2022年2月に全国の過去3年間スポーツ施設を利用していない600名を対象にアンケート調査を実施した。本調査はインターネット調査会社を通じて行ったため、調査対象者に対する調査内容およびデータの使用方法等の説明や同意については調査会社へ委託した。その際、無記名による調査のため、調査対象者に不利益が被らないことを調査会社へ伝えた。尚、本調査は神戸医療未来大学倫理審査委員会の承認（管理番号：20210009）を受けて行った。

2.2 調査項目

本調査は、笹川スポーツ財団のスポーツライフ・データ¹⁰⁾を参考に「体育館」、「屋内プール」、「屋外プール」、「陸上競技場」、「グラウンド」、「野球・ソフトボール場」、「武道場」、「ダンススタジオ」、「トレーニングルーム」、「テニスコート」、「ゴルフ場（コース）」、「ゴルフ場（練習場）」、「ボウリング場」、「スキー場」、「ゲートボール場」、「サイクリングコース」、「フットサルコート」、「バスケットコート」、「スポーツジム」、「ゲレンデ」、「アスレチック・ロッククライミング施設」、「付き添い(子供の観戦)」、「その他スポーツ施設」の23項目を設定し、過去3年以内に通っていたことのある施設がある場合は調査対象外とした。尚、スポーツ施設とは、「公共の施設」、「民間の施設」、「小・中・高校の学校施設」「大学・高専等の学校施設」、「職場の施設」を指す旨を提示し調査を実施した。

2.2.1 基本的属性

調査対象者の基本的属性は、「性別」「年代」を設定した。

2.2.2 スポーツ施設を利用しない理由について

運動・スポーツ施設利用の阻害要因を明らかにするため、「スポーツ施設を利用しない理由（自由記述）」を設定した。

2.3 分析方法

本調査の統計処理はSPSS Statistics 25、KHCoder 3を用いた。

2.3.1 単純集計

調査により得られた結果について、調査対象者の「性別」「年代」に対して単純集計を実施した。

2.3.2 自由記述のテキストマイニングによる分析

「スポーツ施設を利用しない理由」を自由

記述にて回答を求めて、得られた結果についてテキストマイニングツールのKHCoder³¹¹⁾を用いて分析を行った。まず始めに、得られたデータの表記のゆれの確認および修正を共同研究者と実施した。例えば、「コロナウイルス感染症」という単語には、「コロナ」や「コロナウイルス」、「コロナ感染症」など表記のゆれが生じていたため、今回の研究では「コロナ」に統一を行った。このように文意を変えないよう細心の注意を払った上で、同一の意味を示す語を適宜統一した。

これらの手続きを行った上で、頻出語の抽出および共起ネットワーク分析、対応分析を実施¹²⁾した。対応分析は、基本的属性の性別、年代と頻出語で行った。

3. 結果

3.1 基本的属性

表1は、調査対象者の属性について示した結果である。性別は「男性」57.7%、「女性」42.3%という結果であった。年代は「20代」4.3%、「30代」13.0%、「40代」20.3%、「50代」35.2%、「60代」27.2%という結果であった。

表1 基本的属性

項目		度数	%
性別	男性	364	57.7
	女性	254	42.3
年代	20代	26	4.3
	30代	78	13.0
	40代	122	20.3
	50代	211	35.2
	60代	163	27.2

3.2 スポーツ施設を利用しない理由

3.2.1 頻出語

表2は、スポーツ施設を利用しない理由の頻出語を示したものである。出現頻度が高い順に「スポーツ」「時間」「運動」「お金」「面

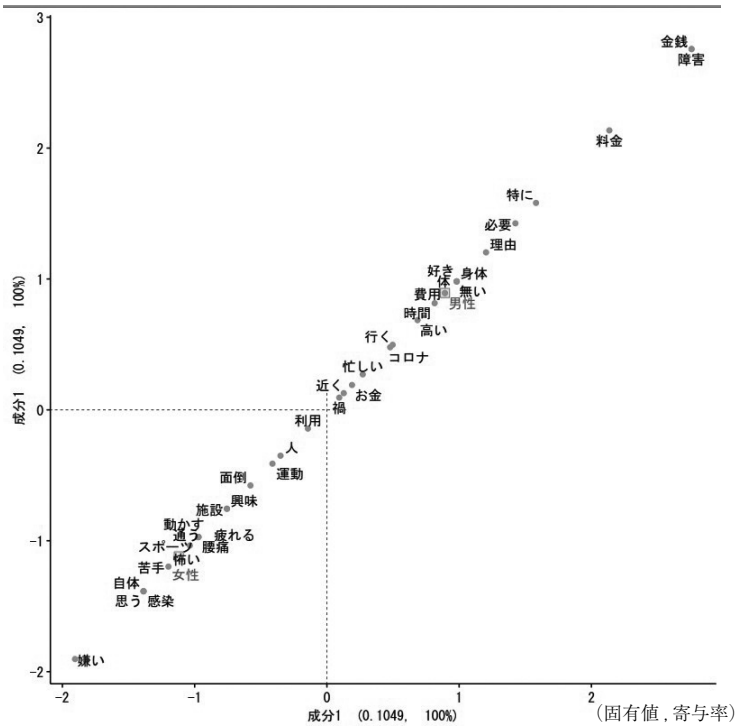


図2 性別×スポーツ施設を利用しない理由

3.2.3 対応分析

図2は、性別と頻出語の対応分析により抽出された結果である。「男性」は、「費用」「時間」「身体」などの語と近くなり、「女性」は、「苦手」「怖い」「疲れる」などの語と近くなる傾向が示された。また、固有値は0.1049、寄与率は100%となった。

図3は、年代と頻出語の対応分析により抽出された結果である。「20代」は「必要」「疲れる」、「30代」は「嫌い」「忙しい」「料金」、「40代」は「お金」「面倒」、「50代」は「時間」「施設」、「60代」は「金銭」「コロナ」などの語と近くなる傾向が示された。また、横軸の固有値は0.0839、寄与率は35.87%であり、縦軸の固有値は0.0737、寄与率は31.52%となった。

4. 考察

本調査の結果からスポーツ施設を利用しない理由として、「スポーツ」「時間」「運動」「お金」「面倒」という語句が多く抽出され、共起ネットワーク分析でも「スポーツ」「運動」「苦手」「嫌い」という語句のサブグラフが出現した。スポーツの実施状況等に関する世論調査²⁾では運動頻度に満足していない者の運動・スポーツの阻害要因は「仕事や家事が忙しいから」「面倒くさいから」が上位項目として挙げられている。また、西村・山口の研究¹²⁾では、定期的な運動・スポーツを実施していない既婚の中年期女性は、運動・スポーツを「競技やゲーム、球技、難しい、非日常的、学校でやったようなもの」と捉えていたことを明らかにしている。したがって、本研究が着目するスポーツ施設の阻害要因と運動・スポーツ実施の阻害要因には共通点が

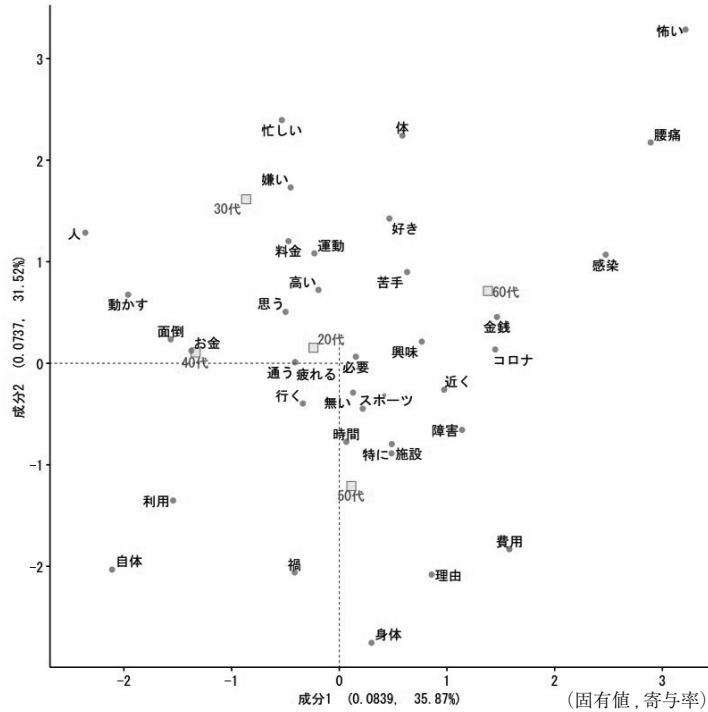


図3 年代×スポーツ施設を利用しない理由

存在し、運動・スポーツに費やす時間がないことや面倒くさいという思い、さらには運動・スポーツへの苦手意識から、スポーツ実施を避け、そのことがスポーツ施設利用にも影響していると推察する。

テキストマイニングの共起ネットワークで、特に特徴的であったものは、①「料金」「高い」、②「時間」「無い」「通う」「近く」、③「コロナ」「怖い」「感染」「面倒」のサブグラフである。これらは、料金が高くて施設を利用しない、施設が近くになく時間も確保できず利用できない、コロナ感染が怖くてスポーツ施設に行けなかったと解釈することができる。この、3つのサブグラフについては、下記でまとめる。

まず、①「料金」「高い」というサブグラフについてである。公共スポーツ施設のトレーニング場利用者を調査対象とした利用料金の支払意思額について研究した佐野・梅津

(2020)¹³⁾は、「利用料金に対する支払意思額は広義には100～1,000円、狭義には200～500円の範囲内にあり、ワンコイン（500円）が心理的上限の目安である」と指摘している。一方で、スポーツ施設の利用目的を調査した研究¹⁴⁾では、安価でスポーツが実施でき、仲間との交流や指導者の存在をもとめてスポーツ施設を利用する傾向にあると述べている。すなわち、阻害要因の1つに会費が挙げられているため、安価でスポーツが実施できる支払意思額は1つの基準として捉える必要があるものの、利用してみたい施設の種類の調査まで至らなかったため、今後の研究に活かしていく必要がある。次に、②「時間」「無い」「通う」「近く」というサブグラフの語句の原文を確認すると「近くに施設が無いから」や「育児で時間がないから」、「施設に通う十分な時間がない」などの回答が確認できた。また、公共スポーツ施設と民間スポーツ施設の

利用目的についての研究⁹⁾では、施設が身近にあるや距離が近いといったアクセシビリティが施設を利用する要因と指摘している。したがって、施設の利用はアクセシビリティの観点が重要であり、施設との物理的な距離の問題点や時間的余裕といった課題が確認できた。最後に、③「コロナ」「怖い」「感染」「面倒」というサブグラフの語句の原文を確認すると、「現在はコロナ禍なので、人の飛沫が飛びそうな施設を利用したくないので」や「コロナで全予約制となり面倒」などの回答が確認できた。本調査は、コロナ禍に実施したものであったことから、このような回答が得られたと考える。また、施設側もコロナ対策として予約制の導入や人数制限等を余儀なくされた結果、それが却って利用を阻害していたことが明らかになった。コロナ禍での施設マネジメントは、研究の蓄積が少なく対策も難しいが、利用者の声を聞くなどの施設側の寄り添う姿勢はどのような状況であっても必要不可欠なものとする。

次に対応分析では、基本的属性の性別、年代から頻出語の傾向を確認した。まず性別において、男性の阻害要因としては身体を動かすことは好きであるが、自由に使える時間がなく、費用面も影響していることが示唆された。女性の阻害要因は、スポーツに対して、苦手や疲れるといったイメージがスポーツ施設を利用しない理由の傾向であることが示された。女性が運動・スポーツを継続的に実施するまでのプロセスを研究した平野（2019）¹⁵⁾は、「継続的な運動やスポーツを始めるきっかけは、若年層は本人の直感により行動を起こす傾向があり、高年齢層になると外部からの働きかけが行動を起こすきっかけとなる傾向がある」と指摘している。このように、運動・スポーツに対する好嫌は性差があり、女性がスポーツ施設を利用しないのは、きっかけや

周囲からの促し、共に運動・スポーツを実施する仲間の存在が欠かせないことが示唆される。

各年代でスポーツ施設を利用しない理由を確認してみると、20代は、そもそも運動・スポーツを行うにあたり施設を不必要と思っており、また疲れるから利用しないといった傾向が見受けられた。30代は運動が嫌いであり、忙しいから利用しないという傾向を示し、40代は身体を動かすことが嫌いや面倒という運動・スポーツに対してマイナスイメージがあり、また金銭面を懸念する傾向となった。50代は自由に使える時間がないといった傾向があり、60代は金銭面とコロナ感染が施設利用を阻害していることが示唆された。以上のように、年代によってスポーツ施設の阻害要因が異なることが明らかとなった。

5. まとめと今後の課題

本研究は、スポーツ施設を利用していない者を対象とし、スポーツ施設利用の阻害要因を明らかにすることを目的とし、今後の研究資料に活用する基本的情報を整理した。

本研究で明らかとなったことは、以下に集約される。

- (1) スポーツ施設を利用しない理由の自由記述を共起ネットワークで確認したところ、8つのサブグラフに分かれていた。
- (2) 男性は、身体を動かすことは好きであるが、自由に使える時間がなく、費用面も影響している傾向にあった。女性は、スポーツに対して、苦手や疲れるといったイメージがある傾向にあった。
- (3) 20代は、施設は不必要と思い、疲れるから利用しない傾向がある。30,40代は、運動・スポーツが嫌いや面倒というマ

イナスイメージがあり、40代は金銭面を懸念している。50代は、自由に使える時間がないことが特徴として挙げられ、60代は、金銭面とコロナ感染が施設利用を阻害している傾向が確認できた。

本研究は、テキストマイニングを用いて、基礎的情報の整理を試みたため、やや主観的な立場の考察となっており、今後、本研究で得られた情報から研究をすすめ、更なる要因を探っていく。

【注】

共起ネットワーク分析は単語の関連性を可視化することができ、文全体の趣旨の理解などができ、調査対象者のスポーツ施設利用への阻害要因を要約したものを可視化するために選定した。

対応分析は点の距離によって類似あるいは相違する傾向を可視化することができ、調査対象者の属性によるスポーツ施設利用への阻害要因を可視化するために選定した。

対応分析の図2は、1次元のものであるため、縦軸も横軸も成分1となっている。KHコーダーでは結果を見やすくするため、1次元のデータ（垂直のデータ）を45度傾け表示される。

【文献】

- 1) スポーツ庁: スポーツ基本計画、2022
https://www.mext.go.jp/sports/content/000021299_20220316_3.pdf (参照日2023年8月27日)
- 2) スポーツ庁: 別紙「令和4年度スポーツの実施状況等に関する世論調査」結果の概要、2023
https://www.mext.go.jp/sports/content/20230324-spt_kensport02-000028561_1.pdf (参照日2023年8月27日)
- 3) 神野賢治、田島良輝、井上明浩: 公共スポーツサービスの利用者に関する研究—利用者の特性と満足度に着目して—、金沢星稜大学人間科学研究、2 (2)、53-61、2009
- 4) 北見好、佐野昌行、久木田謙介、富田幸博: 公共スポーツ施設に対する満足度に影響を与える要因—世田谷区公共温水プールの調査から—、日本体育大学紀要、41 (1)、101-110、2011
- 5) 秋吉遼子、山口康雄: 公共スポーツ施設におけるサービス・クオリティ、利用者満足、及び行動意図の関連性に関する実証的研究、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要、6 (2)、1-10、2013
- 6) 福田一儀、住田健、岡崎祐介: 公共スポーツ施設の指定管理者に新たな団体が加わったことによる利用者のサービス評価と満足度の変化について、至誠館大学研究紀要、2、51-58、2015
- 7) 梅津志門、佐野毅彦: 公共トレーニング室の平日日中の利用阻害要因に関する事例研究、スポーツ産業学研究、29 (4)、269-279、2019
- 8) 阿部征大: スポーツ施設利用者の利用目的に着目した基本的情報の整理—アンケート調査の自由記述からの検討—、神戸医療未来大学紀要、23 (1)、91-99、2022
- 9) 阿部征大、清宮孝文、依田充代: スポーツ施設の利用目的に関する—考察—公共スポーツ施設と民間スポーツ施設の利用者に着目して—、神戸医療未来大学紀要、23 (1)、1-16、2022
- 10) 笹川スポーツ財団: スポーツライフ・データ2020—スポーツライフに関する調査報告書—、笹川スポーツ財団、東京、2020

- 11) 樋口耕一：テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合—、理論と方法、19（1）、101-115、2004
- 12) 西村久美子、山口泰雄：運動・スポーツ非実施へいたるプロセス、スポーツ社会学研究、11、87-101、2003
- 13) 佐野毅彦、梅津志門：公共トレーニング場利用者の利用料金に対する支払意思額、スポーツ産業研究、30（2）、163-174、2020
- 14) 阿部征大：スポーツ施設利用者の利用目的に着目した基本的情報の整理—アンケート調査の自由記述からの検討—、神戸医療未来大学紀要、23（1）、91-99、2022
- 15) 平野泰宏：成人女性の継続的運動者行動に関する社会学的研究、大妻女子大学家政系研究紀要、55、169-178、2019

